

C-27 顔面、頸の形態と被服構成における衿型との関係について (第3報)
名古屋女子大・生研 ○折原さみえ 林紀美子 天野美保

目的 被服構成における衿型との関係を明らかにすることを目的として、第2報の顔面の類型化に続いて今回は頸の類型化を試みた。

方法 女子大生173名を被験者として、顔面および頸を中心とした写真撮影をし、
±大に引伸した写真を用いて前面体における顔面および頸の各部位の長径、幅径を間
接計測をした。また一方頸の周径は直接計測を併用した。計測結果を統計的に処理し
標準偏差を用いて頸の類型化を試みた。

結果 頸の各部位の長径、幅径、周径には左右差があり、またある程度のばらつき
が認められた。相関関係では各長径間、各幅径間にはそれぞれ相関関係が認められた
が、長径と幅径間に相関が認められたのは少数の項目のみであった。その中でオトカ
イ点～頸窩突の長径と頸付根突幅は高度に相関関係が認められた。そこでその各標準
偏差を用いて先づ5段階にそれぞれ分類し、更に両者を組み合わせることで頸の類型化を試
みた。なお類型別の複合図を作成して観察したところ、同一形態の者は見当らず、顔
型や他の部位の体型と同様に、頸も多様性を持つに形態であることを確認した。なお
肩に関しても、3の考察を試みた。